

令和3年度 雀宮南小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む） ※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

（1）基本目標

「人間尊重の教育」を基盤として、地域の特性や児童の実態を踏まえ、社会の変化に主体的に対応できる知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい南の子の育成に努める。

（2）具体目標（具体的な児童生徒像など） 南の子 なかよく かしく たくましく

○なかよく……なかよく助け合い きまりを守る子(思いやり・規範意識・人権意識)

○かしく……進んで学びよく考え自分の言葉で表現できる子(自主性・創意・コミュニケーション力)

○たくましく……明るく元気に粘り強くやり遂げる子(明朗・勤労・耐性・自己肯定感)

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

小学校は、子供の夢を育んでいく場所であり、多様な経験を通して学んでいく場所である。個の成長を認めることを基本とし、教育活動の充実・改善を通して、一人一人が自分の成長を実感し自己肯定感をもてる学校づくりを進めていく。そのためには、教職員が互いに教師力を磨き合い、それぞれの専門性や個性を発揮しながら、明るく笑顔で教育活動を推進していくとともに、地域・保護者・児童・教職員が心一つにして、「笑顔いっぱい あいさついっぱい やる気あふれる南小」を目指して努力していく。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画及び第2次宇都宮市学校教育スタンダード、令和3年度指導の重点を踏まえ、児童・教員・保護者・地域が協力しながらそれぞれの役割を果たす学校経営に努める。

- (1)児童一人一人が自分のよさを発揮し、学校生活への充実感や自己肯定感を感じることでできる学校づくりに努める。
- (2)基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育み、主体的に学習に取り組む態度を育てることに努める。
- (3)教育活動全体を通して、計画的・系統的に人権を尊重する心、人を思いやる心、規範意識などを育むとともに、折れない心や、やり抜く心など心のたくましさの涵養に努める。
- (4)生涯にわたって自他の生命を尊重し健康で安全な生活を送れるよう、自ら進んで体力づくりをしようとする態度や健康管理する能力、望ましい生活習慣、危険を予測し回避する行動を身に付ける力の育成に努める。
- (5)情報化の急激な時代の変化に向き合い生き抜くための資質・能力を身に付けることができるように情報活用能力の育成に努める。
- (6)教職員が同僚性と協働性、職種の利点を発揮したチーム力の向上を通して、組織的、計画的な教育活動の推進に努める。
- (7)教育者としての使命感を自覚し、研究・研修、日常の相互研鑽等を通して、人権意識の高揚と指導力の向上に努める。
- (8)教職員一人一人のモチベーションやメンタルヘルスを保持しながら、最大限の力を発揮できるように業務の改善と勤務時間を意識した働き方改革を推進する。
- (9)地域と連携・協働した学校づくりを推進する。
- (10)地域学校園の連携を図り、児童生徒・教職員の特徴・よさを生かした教育活動を推進する。

〔雀宮地域学校園教育ビジョン〕一人一人が自らの良さを自覚し、主体的に学ぶ児童生徒の育成
～いきいきとした活動を通して～

4 教育課程編成の方針

- (1)児童が明るく楽しく生き生きと取り組める特色ある学校づくりを目指し、異学年間交流活動や教師と児童による主体的活動の推進と、地域外部人材を活用した意図的・計画的な実践化を図れる教育課程の編成に努める。
- (2)言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を教科等横断的な視点で育成していく教育課程の編成に努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】

- 児童一人一人がよさを発揮し、学校生活への充実感や自己肯定感を感じる教育活動の展開
- 認め励ます教育の一層の推進
 - ・道徳教育・人権教育の充実を通じた、豊かな人間性と他者を思いやる力の育成と折れない心ややり抜く心などのたくましさの涵養
 - ・地域と目標を共有し、地域の教育力を生かした特色ある教育活動の展開
 - ・業務を効率化し時間的な余裕の中で質の高い教育活動を展開するための環境の整備と教職員の意識改革
 - ・コロナ禍における感染防止対策の徹底と情報発信による保護者・地域の理解の促進

【学習指導】

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進
 - 「宇都宮モデル」の「はっきり」「じっくり」「すっきり」を踏まえた授業改善
 - 児童が学習の見通しを立てたり、学習内容を振り返って次につなげたりする学習活動の展開
 - 児童自らが学習課題や学習活動を選択する展開の工夫
 - 各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせる発問や学習活動の工夫

獲得した知識を関連付け深く理解したり、生活や他教科で活用したりする学習活動の展開 ・ICTを効果的に活用した授業展開の工夫（デジタル教科書等の活用） ・言語能力、情報活用能力やSDGsに係る現代的な諸課題に対応する力を育てる問題解決的学習や教科等横断的指導の充実 ○ 単元や学期ごとに復習するまとめ学習の充実と学習したことを振り返って復習したりする家庭学習の習慣化 ・安心して考えを伝え合い、互いに高め合える学級集団づくり ・学校行事や特別活動などで自分の変容や成長を実感できる学習活動の工夫（キャリア教育の充実） ・図書、ICTの活用能力を向上させる指導の充実（1人1台端末の活用の推進） ・家庭での読書習慣の形成 【児童生徒指導】 ○ ルールやマナーがあるよさを実感し、進んで守ろうとする態度の育成 ○ 相手の気持ちを考えて行動する実践力（あいさつ・場に応じた言葉遣い等）の育成 ・いじめ・不登校を生まない指導と居がいのある学級づくり ・家庭での生活を振り返り、よい生活習慣を身に付けようとする態度と情報モラルの育成 【健康（体力・保健・食・安全）】 ○ 健康に関する知識を正しく理解し、健康で安全な生活を営む力を育むとともに、進んで運動に取り組む児童の育成 ○ 自分で決めた目標に継続的に粘り強く取り組むことができる児童の育成 ・危険を予測し、自らの命を守るための行動力の育成 ・自らの食生活を振り返り、望ましい食習慣の形成に向けて自ら改めようとする態度の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す	A1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。→児童の肯定的回答 85%以上	① 学びの質を高めるために、めあての立て方、ノートを取り方、まとめ、振り返りの仕方などについてきめ細やかな指導を行う。 ② 言語活動を充実し、主体的・対話的に取り組めるような授業の展開を図る。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 96.3%で指標を上回った。 【次年度の方針】 ・ノート指導の充実を図る。 ・主体的に取り組めるよう、学習のめあてや活動内容を子供たちと一緒に考え、組み立てる授業展開を実施する。
	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。→児童の肯定的回答 85%以上	① 道徳や学級活動などの授業を通して、思いやりの心を育み、縦割り班活動等で実践できるようにする。 ② 縦割り班活動に、その日の振り返りの時間を設け、それぞれの良かった点を発表し合う。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 92.1%で指標を上回った。 【次年度の方針】 ・学級内で思いやりのある行動をした児童を取り上げてほめる。
	A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。→児童の肯定的回答 85%以上	① 「よい子の一日（きまり）」「遊びのきまり」や生活目標の周知徹底を図ることで、規範意識を高め、けじめのある行動がとれるようにする。 ② 人権教育や道徳の授業、運動会・全校遠足等の学校行事の活動を通して、集団の一員としての自覚を高めていく。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 91.2%，保護者は 90.4%，教職員は 91.7%で児童・保護者・教職員とも指標を上回った。 【次年度の方針】 ・生活目標について、振り返る機会を定期的に設ける。 ・生活目標の周知方法を工夫することで規範意識を高める。 ・公德心・公共のマナーなどについて、道徳教育や人権教育を通じて、指導の充実を図る。

児 童 の 姿	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。→保護者の肯定的回答 85%以上	① 児童・地域・保護者が協力し合い、朝のあいさつ運動を定期的（6月・10月）に行う。また、代表委員会やボランティアによるあいさつ運動を行い、児童の意識を高める。 ② あいさつ運動の期間に、道徳や特別活動の時間で礼儀の授業を行い、児童の意識を高める。 ③ 月一回の振り返りカードを作成し、挨拶の様子をふりかえり、「ニコニコカード」を使用し進んで挨拶をする習慣をつける。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答 93.2%、保護者は昨年度より 5.2 ポイント減少して 72.4%であり指標を下回った。 【次年度の方針】 ・登下校時に地域の方や教職員に児童自らあいさつができるよう指導する。 ・ボランティア募集や各学級単位での啓発など、あいさつ運動の内容を検討する。 ・新年度の登校班編成の際に、班長にあいさつの指導をする。 ・校舎内においても、教職員や学校に来られた方々に対して、自ら会釈やあいさつができるように機会を捉えて指導する。
	A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 児童は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。→児童の肯定的回答 80%以上	① 自分で決めた目標に継続的に粘り強く取り組むことができるよう指導する。 ② キャリアパスポートを活用し、自分のよさや適性、将来の生き方を考えさせるとともに、身のまわりの仕事について調査するなど、自分や他者の生き方に関心をもたせる取組をする。	B	【達成状況】 ・教職員と保護者の肯定的回答は減少したが、児童は 89.0%であり、昨年度よりも 5.3 ポイント増加した。 【次年度の方針】 ・本年度の取組を継続するとともに、キャリアパスポート等を活用して児童の姿を見せ、保護者の意識を高める。 ・目標達成に向けて取り組む姿を懇談会や学年だより等で積極的に周知する。
	A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。→児童・保護者の肯定的回答 85%以上	① 「交通安全教室」「避難訓練」「防犯訓練」等を定期的に実施し、日常生活の中で考えられる危険やその対策について体験的に気付かせる。 ② 親子レクレーション等を家庭に紹介し、強調月間を設けて、家庭での運動の習慣化を図る。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 92.9%で、指標を上回っており、保護者は 93.4%であった。 【次年度の方針】 ・登下校のルールやマナーについて指導を継続するとともに、児童の安全意識を高め、危機回避能力を身に付けさせるため、様々な場面を想定した避難訓練を実施する。 ・健康や安全について指導を継続するとともに、基本的生活習慣を身に付けさせる取組をする。
	A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 児童は、夢や目標に向かって社会に貢献できるよう努力している。→児童の肯定的回答 80%以上	① 自分で決めた目標に継続的に粘り強く取り組むことができるよう指導する。 ② キャリアパスポートを活用し、自分のよさや適性、将来の生き方を考えさせるとともに、身のまわりの仕事について調査するなど、自分や他者の生き方に関心をもたせる取組をする。	B	【達成状況】 ・教職員と保護者の肯定的回答は減少したが、児童は 89.0%であり、昨年度よりも 5.3 ポイント増加した。 【次年度の方針】 ・本年度の取組を継続するとともに、キャリアパスポート等を活用して児童の姿を見せ、保護者の意識を高める。 ・目標達成に向けて取り組む姿を懇談会や学年だより等で積極的に周知する。
	A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。→教職員の肯定的回答 80%以上	① 英語を使ったコミュニケーションを行う目的や場面を理解させるとともに、コミュニケーションできる場面の設定を工夫する。 ② ALTと連携を図りながら、コミュニケーションできる場面を多く設定する。	B	【達成状況】 ・教職員は 86.4%であり指標は上回った。 【次年度の方針】 ・ALTと連携し、コミュニケーションの場面を多く設定する。 ・授業中に T1 と T2 が会話をする場面を増やす。
	A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 私は、宇都宮の良さを知っている。→児童の肯定的回答 80%以上	① 宇都宮における人・自然・社会などについて様々な場面で意図的に触れさせ、興味・関心がもてる工夫をする。 ② 副読本や図書資料、教育機器等を活用して宇都宮について調べ学習できる場の設定を工夫する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は昨年度より 10.6 ポイント増加して 80.5%となり指標を上回った。 【次年度の方針】 ・低学年においても宇都宮のよさを知ることができるようなはたらきかけを折に触れて行う。

目 指 す 学	A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。→教職員の肯定的回答 85%以上	① ICT機器や図書館等における設備の充実を図るとともに、それらを活用したわかる授業を展開する。 ② ICT機器や図書等を工夫して活用することにより、授業の改善を推進する。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100%、児童は 91.2%で指標を上回り、保護者は昨年度より 20.2 ポイント増加して 78.7%であった。 【次年度の方針】 ・学校ホームページや各種便りで ICT 機器を活用している学習活動の様子を積極的に家庭に発信する。また、授業参観で ICT 機器を活用した授業を行う。
	A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 児童は、高齢者に対して、感謝やいたわりの心をもって優しく接している。→児童の肯定的回答 80%以上	① 道徳や学級活動などの授業を通して、思いやりの心を育み、いきいき班活動等で実践できるようにする。 ② 縦割り班活動に、その日の振り返りの時間を設け、それぞれのよかった点を発表し合う。 ③ 感謝の会などの学校行事等を通して、感謝の心を表すとともに、温かい人間関係を育む活動をする。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 92.1%で指標を上回った。 【次年度の方針】 ・学級内で思いやりのある行動をした児童を取り上げてほめる。
	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。→教職員の肯定的回答 80%以上	① 図書の読み聞かせや図書資料、映像資料の活用を通して、教職員が持続可能な社会や SDGs の考え方について理解を深め、授業を含めた機会を捉えて話題に取り上げる。 ② SDGs の内容を掲示し、「持続可能な社会」についての啓発を図る。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 89.2%で、昨年と比較して 5.0 ポイント上回った。教職員は 58.3%で指標を大きく下回った。 【次年度の方針】 ・「持続可能な社会」について、指導者自身が理解を深め、授業や委員会活動等を通して児童が自ら活動する機会を増やす。
	B1 本に親しみ、進んで見聞と視野を広げようとしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、進んで本を読んでいる」→児童の肯定的回答 80%以上	① いろいろな分類の本を読めるように読書カードを工夫する。 ② 読み聞かせボランティアを活用し読書活動を充実させる。 ③ 「ぜひ読み」を家庭へ知らせ、読書に親しむ環境づくりをする。 ④ 市立図書館との連携等で積極的に学習に必要な本を収集し情報センターとしての機能を強化する。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 79.6%で、昨年より 9.4 ポイント増加したが、指標を下回っている。保護者は 66.3%であった。 【次年度の方針】 ・金曜日の朝の時間は読書の時間と固定化し、必ず読書をする。 ・図書館の利用時間を増やす工夫をする。 ・児童が自ら本に向き合う時間を確保する。
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員は、特別な支援を必要とする児童に対して、適切な支援をしている。→教職員の肯定的回答 85%以上	① 児童指導に係る研修や校内支援委員会を活用して情報収集・情報共有・共通理解を図る。 ② 教育相談やQ-Uなどを活用して児童理解を図るとともに、自己肯定感がもてる学級経営や分かる授業を展開する。 ③ 週1回の打合せにおいて、必要に応じて児童指導に係る情報交換をして共通理解を図る。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は昨年度より 3.8 ポイント増加して 95.8%であった。 【次年度の方針】 ・計画的な校内支援委員会や児童指導に係る研修を実施する。 ・クラスや学年、職種を超えて連携して指導にあたる。 ・Q-Uや各種アンケート結果を活用し、児童が自己肯定感をもてる学級経営や授業の工夫をする。

校 の 姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。→保護者の肯定的回答 85%以上	① いじめ防止基本方針に基づき、いじめアンケートや教育相談等を活用して、いじめの未然防止・早期発見・早期対処を図る。 ② 教育活動のあらゆる場面を通して、児童の人権感覚を育み、いじめが許されない行為であることを指導する。学年便りの工夫や懇談会で伝えたり、ホームページを活用したりして情報を発信する。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答は 99.2%であり、昨年度より 2 ポイント増加した一方、保護者は 77.6%で昨年度より 6.1 ポイント減少した。 【次年度の方針】 - いじめ防止に関する学校の取組を保護者に周知する。 - 学年だよりや学校HPに各クラスのいじめゼロスローガンを掲載し、いじめに関する授業や取り組みの様子を掲載する。 - 授業参観時に昇降口付近でいじめゼロスローガンを発表したムービーを流したり、児童指導関係の文書を作成したりすることを継続して行う。 - いじめの早期発見、早期解決ができる学校全体における組織的取組を徹底する。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。→児童の肯定的回答 85%以上	① 児童指導に係る校内研修などから、情報収集・情報共有・共通理解を図るとともに、早期発見・早期対処を図る。 ② 不登校とならないための魅力ある学校づくりを進めるとともに、不登校児童に対するきめ細かく柔軟な対応を行う。		【達成状況】 - 児童の肯定的回答は 98.3%で指標を大きく上回った。また、保護者は 90.9%であった。 【次年度の方針】 - 児童が自己肯定感を高めたり、居がいを感じたりできる学級づくりをする。 - よりよい人間関係を構築できるようデータ等を有効に活用する。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員は、外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。→教職員の肯定的回答 85%以上	① 児童指導に係る研修や校内支援委員会を活用して情報収集・情報共有・共通理解を図る。 ② 教育相談やQ-Uなどを活用して児童理解を図るとともに、自己肯定感がもてる学級経営やわかる授業を展開する。 ③ 必要に応じて児童指導に係る情報交換をして共通理解を図る。		【達成状況】 - 教職員の肯定的回答は昨年度より 3.8 ポイント増加して 95.8%であった。 【次年度の方針】 - 計画的な校内支援委員会や児童指導に係る研修を実施する。 - クラスや学年、職種を超えて連携して指導にあたる。 - Q-Uや各種アンケート結果を活用し、児童が自己肯定感をもてる学級経営や授業の工夫をする。
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 私は、今の学校が好きです。→児童の肯定的回答 85%以上	① いきいき班による異学年交流活動に積極的に取り組み、児童主体の活動を展開していく。活動を通して、児童・教職員間の信頼関係や仲間意識を高める。 ② 教職員間のコミュニケーションや意見交換を活発に行い、共通理解のもと協力して取り組む。		【達成状況】 - 児童の肯定的回答は 88.7%と指標を 3.7 ポイント上回った。保護者は 87.5%だった。 【次年度の方針】 - 児童が活躍できる場を設定することで、居がいのある学校づくりを推進する。
	A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。→児童の肯定的回答 85%以上	① 一人一人の興味・関心や能力を的確に把握し、体験的学習を取り入れながら、指導と支援の工夫に努める。 ② ICT（一人一台端末等）の積極的な活用、国語・算数におけるT・Tや少人数指導（習熟度別学習）等で「楽しくわかる授業」を推進していく。 ③ 「はっきり・じっくり・すっきり」の宇都宮モデルプランに基づき授業を展開する。		【達成状況】 - 児童の肯定的回答は 96.6%であり、指標を大きく上回った。 【次年度の方針】 - 授業の展開を工夫するため、ICT機器を活用した資料を提示する。 3年生以上の少人数および習熟度別学習に工夫を加え、計画的に行う。

A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。→教職員の肯定的回答 80%以上	① それぞれの専門性を生かしチーム学校で対応していく。具体的な協働の在り方を研修し、実践していく。 ② 校内の様々な職種の特性を生かし、多角的な解決策を検討し取り組んでいく。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 95.8%であり、昨年度より 7.8 ポイント増加した。 【次年度の方針】 ・専門性を有するスタッフと連携し、校内のニーズとつなげ、多角的な解決策が得られるように取り組んでいく ・情報共有を密にし、教職員が力を出し合い、より一層協力できるようにしていく。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。→教職員の肯定的回答 80%以上	① 行事・活動の起案時に目的を明確にした上で、業務の効率化を意識した計画とする。 ② ミライムの出・退勤時刻管理を活用し、勤務時間を意識した働き方への意識改革を図る。 ③ ミライムの出・退勤時刻管理を活用し、勤務時間を意識した働き方への意識改革を図る。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 91.7%であり、昨年度より 3.7 ポイント増加した。 【次年度の方針】 ・行事や活動について、今年度の反省を基にさらに業務の効率化・簡素化を図る。 ・ミライムの出退勤時刻管理を活用し、勤務時間を意識した働き方に対する意識改革を促進する。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」→児童の肯定的回答 80%以上	① 地域学校園であいさつ運動を定期的に実施することで中学生との交流を深める。 ② 学校便りやHPで、中学校からの乗り入れ授業について積極的に発信していく。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 75.0%であり、昨年度より 10.2 ポイント増加した。 【次年度の方針】 ・学校だよりの他、学校園図書だよりや学校園食育だよりを活用し、地域学校園での取組を周知していく。 ・乗り入れ授業の周知方法を工夫する。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。保護者・地域住民の肯定的回答 85%以上	① 学校便りやHPで、PTA活動や各種ボランティア活動を活用した教育活動の様子を積極的に活用していく。 ② 保護者や地域の教育活動に関する要望には、教職員同士が協力し合い、迅速に対応する。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 86.2%、地域住民は 92.9%と両者とも指標を上回った。 【次年度の方針】 ・学校菜園ボランティアをはじめ、地域ボランティアの活動内容について、各種だよりに記載したり、校内放送で動画を流したりするなど児童へ積極的に周知する。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。→保護者の肯定的回答 85%以上	① PTA・安全パトロール隊（自治会）・地域の見守り活動と協力し、児童の登下校の安全に努める。 ② 企業・地域の施設や人材を活用した学習や体験活動の充実に努める。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 86.2%、地域住民は 92.9%と両者とも指標を上回った。 【次年度の方針】 ・学校菜園ボランティアをはじめ、地域ボランティアの活動内容について、各種だよりに記載したり、校内放送で動画を流したりするなど児童へ積極的に周知する。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。→保護者・地域住民肯定的回答 80%以上	① 施設の設備点検を実施し、必要のある場合には、補修・修繕を迅速に行う。普段の清掃では行き届かない個所の環境整備を計画的に行う。 ② 校内の空きスペースや掲示場所を有効に活用し、環境美化や情操教育に努める。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 91.7%、地域住民は 100%と指標を上回った。 【次年度の方針】 ・安全点検を中心に情報交換を密にして施設の安全管理に取り組む。 ・誰もが安心して学校を利用できるように、衛生面に配慮した環境を整える。

	A25 学校は、学習に必要な I C T 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 教職員は、I C T 機器や図書等を整備している。→教職員の肯定的回答 85% 以上	① I C T 機器や図書館等を活用した分かる授業を展開するため、設備の充実を図る。 ② I C T 機器や図書等を活用して授業の改善を推進するため、設備の充実を図る。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100%，児童は 91.2%で指標を上回り、保護者は昨年度より 20.2 ポイント増加して 78.7%であった。 【次年度の方針】 ・学校ホームページや各種便りで ICT 機器を活用している学習活動の様子を積極的に家庭に発信する。また、授業参観で ICT 機器を活用した授業を行う。
本校の特色・課題等	B2 進んで学び、自ら考え、判断し、主体的に行動することができる。 【数値指標】 児童は、進んで学び、自ら考え、判断し、主体的に行動することができる。→児童の肯定的回答 85%以上	① 「学習の月別重点目標」や「よい子の一日」に基づいた生活を児童に意識させる。 ② 学習活動、特別活動において、児童が自ら考え、主体的に活動できる場の設定と適切な支援の充実に努める。	C 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は昨年度より 6.5 ポイント増加して 85.8%であった。教職員は、75.0%，保護者は 68.8%であり指標を下回った。 【次年度の方針】 ・質問内容が市共通の質問項目で評価可能なことや、質問内容が幅広くて評価困難であることから削除するとともに、本校の特色をより明確に評価できる質問を検討する。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

全体

- ・ A4「あいさつ」、A5（A7）「夢や目標」、A9「宇都宮のよさ」、A10（A25）「I C T や図書等」、A14「いじめ」、A18「分かりやすい授業」、B1「本との親しみ」、B2「主体的な行動」8項目において、保護者と児童のポイント差が10P以上あり対照的である。
- ・ A9「宇都宮の良さ」では、児童が80.5%である一方、教職員54.2%，保護者54.0%はかなり低い値であり、評価方法に問題がある。
- ・ A10（A25）「I C T ・図書等」では、教職員・保護者・児童とも昨年度より大きく増加しており取組の効果があつたと見られる。
- ・ A14「いじめ」では、教職員100%，児童99.2%である一方、保護者は77.6%と昨年度よりも6.1P低い値であり、保護者への丁寧な説明が必要である。

教職員

- ・ A5（A7）「夢や目標」では、昨年度より12.8P減少しており、夢や目標をもたせる工夫が必要である。
- ・ A12「持続可能な社会への関心」では、昨年度より10.3P増加しているが、数値指標より21.7P低い値であることから、持続可能な社会について児童に知らせる工夫が必要である。

保護者

- ・ A5（A7）「夢や目標」では、保護者と児童が話し合いながら取り組める工夫が必要である。
- ・ A14「いじめ」では、昨年度より6.1P減少しており、児童への継続した指導はもとより保護者との連携・協力、発信について工夫が必要である。

地域住民

- ・ 11項目（再掲2項目を含む）中、7項目（再掲1項目を含む）で100%である。

児童

- ・ 全項目で昨年度より増加している。また、18項目（再掲3項目を含む）中、16項目（再掲3項目を含む）について80%以上である。

7 学校関係者評価

- A2「思いやり」では、あまり華美にならないよう小さなことからコツコツと努力することを教えてほしい。一日一善
- A3「決まりやマナー」では、決まりやマナーを守って登校しており評価できる。
- A4「あいさつ」では、「新年度の登校班編成の際に班長にあいさつの指導をする」とあったが、ぜひお願いしたい。登下校時にあいさつをかわす機会があるが、素晴らしいあいさつをかわせる児童が多く感心している。
- A7「英語を使ってコミュニケーション」では、児童たちのポイントが増加したことは喜ばしく、自分たちの今を肯定的にとらえているという事実がうれしい。
- A9「宇都宮の良さ」では、保護者や地域住民の皆様の目に触れる機会も出てくることから、「宇都宮の魅力」に気付き郷土愛の醸成にもつながり評価も改善することを期待する。
- A10「ICT機器や図書の活用」では、活用方法にはまだまだ広がりがあると思うので、好事例の収集などにより工夫を継続してほしい。評価がそれぞれ高く素晴らしい。
- A14「いじめ」では、一部いじめがあったと聞いた。「いじめ等防止対策委員会」でいじめ防止に取り組んでいると思うが、いじめられた児童、いじめた児童、それぞれの保護者の気持ちを考慮してほしい。
- A18「わかりやすい授業」では、先生方の授業への努力と熱意の賜物である。
- A22「地域の教育力」では、コロナ禍においても菜園ボランティア活動ができてやり甲斐があった。また、子供たちと一緒に収穫方法や安全指導等ができて大変楽しかった。
- A23「家庭・地域・企業等と連携」では、班ごとの一斉下校は月1回実施してほしい。また、教職員も同行して状況を確認してほしい。
- B1「本への親しみ」では、A10の割合が高くなるほど読書の時間が減少するのかもしれない。
- 総合的な評価に児童の「全項目で昨年度より肯定的回答が増加している」という点は良いことだとは思いますが、なぜなのかわかりません。
- 次世代教育支援として「みんなでつくるSDGs人生ゲーム」のオンライン授業があった。こういった手段をたくさん活用して子供たちにこれからの世の中を自信をもって歩いていける知識を授けてほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 今年度引き続き、いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、道徳をはじめ各教科、体験活動、学校行事など学校の教育活動全体を通して、児童の気持ちに配慮しながら思いやりの心や親切心、いたわりの心などをもてるように指導の工夫をする。
- 持続可能な開発目標（SDGs）には“2030年までに達成すべき17の目標”があることを、発達の段階に応じて児童にはもちろんのこと、教職員も理解を含め、持続可能な社会について関心がもてるよう工夫の継続をする。
- 宇都宮市の伝統や文化、産業などについて体系的な教育を構築する「宇都宮学」の学習を実施することにより、郷土愛の醸成を図る工夫をする。特に、雀宮地域の伝統や文化、産業等を知る機会を設ける工夫をする。また、教職員が宇都宮について興味・関心をもつとともに、児童の興味・関心が高まる指導の工夫をする。
- 一人一台学習端末を有効活用できるような研修を実施するとともに、ICT活用の場面やタイミング、活用する上での創意工夫など、児童の学力向上に向けた効果的なICTの活用方法をさらに工夫する。
- 企業・地域の施設や人材を活用した学習や体験活動の充実に努めるとともに、保護者や地域住民と連携・協力しながら教育活動や学校運営の充実に工夫をする。